

岡崎市議会議長 様

支出番号

会派名

代表者名

加藤史朗

以下のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 報 告 書

令和 7 年 3 月 3 1 日提出

活動年月日	令和 7 年 3 月 2 6 日（水）	
氏名	加藤史朗	
用務先 及び 内 容	1 3 月 2 6 日	用務先 リファレンス西新宿大京ビル（東京都） 内 容 地方議員研究会 研修会
	2 月 日	用務先 内 容
	3 月 日	用務先 内 容
	4 月 日	用務先 内 容
	備 考	

政務活動報告書(地方議員研究会)

テーマ 自治体病院関連質問で地域の医療を守る

■参加意図

市民病院のあり方検討特別委員会等において、市民病院の将来についての議論に参加する中で、前提となる病院・自治体病院の収支構造や経営状況に関する知識や視点が不足しており、自身で学習しても全体像がつかめず苦慮していたため、自治体病院改革の専門家から直接学べる本研修を受講することとした。

■講義のポイント

講師 城西大学経営学部教授 伊関友伸氏

1 必ず成果が出る質問の取り上げ方

- ・自治体病院は専門性が高く、当局側も的確にキャッチアップできていない場合が多い。
- ・地方議員が、診療報酬加算、DPC等の理解し、当局へ質問や支援をしていくことが必要。
- ・医業収益の増加には、診療報酬加算が重要。
 - 岡崎市民病院は、急性期病院の最高評価の「急性期充実体制加算1」を取得済。
- ・小児入院医療管理料も重要。
 - 岡崎市民病院は、小児科医9名の「小児入院医療管理料2」を取得済。1は20名以上。
- ・看護師、薬剤師等の医療スタッフの研修体制も加算＝収益改善につながる。
 - 感染防止対策加算1、感染対策向上加算、認知症ケア加算1を取得済。
- ・その他、診療報酬加算を丁寧に取得する「落ち穂ひろい」も収益と医療の向上に必要。
- ・医事業務の委託はよくない。診療報酬制度を熟知したプロパー職員の存在が重要。
- ・入院医療費は、包括医療費支払制度方式(DPC)により算定。その調整係数が重要。
- ・調整係数を上げるには、医師数を増やし、診療の質を増やすことが基本。

2 病院経営改革から病院経営強化へ

- ・病院は企業。自治体本体は支出削減が基本だが、病院は収入の増加が主テーマ。
- ・収入増加策は、医師、看護師、医療技術職の雇用増。「医師は一人で1億稼ぐ」。
- ・医療を高度化し、診療報酬加算を取る。
- ・入院患者を増やし、入院期間を短縮する(円滑に転院できる体制を作る)。
- ・自治体本体と違うのは、職員を雇うことの重要性。総務省も、積極的な採用が収益改善につながると明記、明言している。

- ・「職員数は少ない方がいい」という固定概念にとらわれてはいけない。
- ・医業収支比率の改善が大きい病院ほど、採用増などで費用(投資)を増やしている。
- ・入院患者を増やすため、町医者、消防本部へのアプローチを。
- ・「重症度」「看護必要度」が高い患者をいかに集めるかが収益に直結する。
- ・医療の必要性の低い患者の診療報酬は抑制
 - 一定入院期間を経過した患者の転院先となる後方病院の確保が重要
- ・医療圏での施設間連携が重要 地域連携室の人的体制強化が必要
- ・今後の最も大きな課題は、看護師不足。AI でも代替不可能。
- ・指定管理、民営化のリスクに注意。方針発表を受け医師、看護師の離職、病棟閉鎖も。
- ・看護師不足への対策が必要。初任給調整手当、資格取得支援、研修体制充実、休憩室等の労働環境改善、職員住宅提供、看護補助者の雇用増、労働負担軽減ツール導入など。

■所感

今回の研修受講により、病院の経営改善において、診療報酬加算や DPC の調整係数の向上が重要であることが理解できたなかで、岡崎市民病院は、急性期充実体制加算をはじめ、講師から説明される加算項目のほとんどが既に取得されており、かなり努力がなされていることがわかりました。一方で、病院の意思として、どの加算項目をどのレベルまで獲得していくことを目指しているのか(目指す医療レベルとその理由)については、議員として、当局に確認しつつ、その実現に向け促すとともに、支援していくことも必要と感じました。

また、収益を上げていくうえで、人材の確保・拡大が重要とわかりました。市民病院の採用において定数が採用の抑制になっていないか、看護師の不足はないか、不足があればその対応策はないか、など状況を確認し、行動を促進できればと思います。

その他の視点として、「緊急性の高い救急患者への特化」、「一定の入院期間経過後にスムーズな転院」が実現できるような病院同士の連携体制が、収益改善に向け重要であることが理解できたため、医療圏における各病院の連携体制についても今後、現状や検討状況等を把握し、問題提起や提案をしていきたいと考えています。